

# パンダ専用ミルク開発 高津さん

## 「元気な双子を」心待ち

ジャイアントパンダのペアが東京・上野動物園に到着した。二世誕生にも期待がかかるが、ちよっと心配なのはパンダは双子が生まれる可能性が高いのに、母親は双子のうち一頭しか育てない習性があること。そこで活躍しようなのが人工の「パンダミルク」だ。世界で初めて開発したのは日本人。パンダの母乳に近づける改良も進んだ。開発者も「双子が生まれたら役立ててほしい」とその日を心待ちにしている。

(井上圭子)

### 確率7割も 和歌山で活用例



表門近くのパンダ像の前で記念撮影する子どもたち。後方はパンダ舎=22日午前10時2分、東京都台東区の上野動物園で

パンダミルクの開発者は、森永乳業のグループ会社「森乳サンワールド」の高津善太さん(66)。

きっかけは一九八七年、東京で開かれた世界パンダ会議での米国からの報告。パンダは一度に平均一・七頭の子、つまり七割の確率で双子を生む。ところが母親は双子のうち大きい方しか育てない。ちよつとこのころ、上野動物園で初めて赤ちゃんを産んだ「飲」が、三度目の出産を控えていた。過去二回は

**園内早くも 歓迎ムード**

ジャイアントパンダ来日から一夜明けた二十二日の上野動物園では、来園した親子連れや遠足にきた幼稚園児らが、まだ工事柵で覆われていて中が見えないパンダ舎の前で記念撮影をするなど、早くも歓迎ムードとなった。「姿は見えなくても、ここにパンダがいる」と思っただけで興奮する

る。東京都板橋区から長女の遙ちゃん(五)と二人で来た主婦の有賀洋子さん(三三)は、工事柵づくりにパンダ舎を歩いて気分を盛り上げていた。

パンダ舎の隣には、今回の二頭の来日に合わせ、パンダ繁殖プロジェクト支援のため創設された「ジャイアントパンダ保護サポート基金」への寄付者名を張り出すボード二枚が設置された。

するん＝高津善太社長  
をワ太社  
話サ太社  
の津善太  
当高津善  
乳高津善  
森高津善  
の森高津  
ト森高津  
開森高津



一頭ずつだったが、同会議で報告を聞いた上野動物園パンダ担当獣医師・田辺興記さん(七〇)が「双子が生まれても両方、元気に育てられるように」と、高津さんにパンダミルクの開発を依頼した。

当時、世界中どこにも専用ミルクはなかった。パンダは乳が隠れ

ている上、授乳中は神経質になり人を寄せ付けないので搾乳は難しく、母乳の成分が分からないからだ。

やむを得ず三種のクマの母乳を参考に研

究し、八八年三月、人間の母乳や牛乳と違う、乳糖ゼロ近く、脂肪が40%以上のパンダミルクを完成させた。

ホアンホアンの第三子も一頭なのでミルクの出番はなかったが、父親の飛飛に飲ませたところ、下痢がちだったおなかの調子が改善したという。

和歌山県白浜町のレジャー施設「アドベンチャーワールド」でも二〇〇〇年以降、四組の双子を含む十一頭の赤ちゃんが生まれ、このミルクを活用している。

### 2頭とも落ち着く

上野動物園は二十二日午前、ジャイアントパンダの雄「比力」と雌「仙女」の様子を発表した。

午前零時二十分までに比力、仙女の順でパンダ舎に収容。仙女は入室後二十分ほどでエサの孟宗竹を食へ始める。

雄の比力は搬送直後は、うろつろと舎内を動き回っていたが、徐々に落ち着いてきた。「環境が変わって興奮しているのかも」と担当者は話している。

三年前には日本の研究者が中国でパンダの搾乳に成功。その成分を分析して、現在ではパンダの母乳により近い成分にまで改良が進んだ。昨年十一月、中国を待っている。

国・福建省で開かれたパンダ会議の会場でも注目された。

「世界に誇るミルクを上野の赤ちゃんに」。高津さんは孫の誕生を待つ気持ちで吉報を待っている。